

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 19047

建築物名称	(仮称)EXC宮前平Ⅱ計画新築工事
建築主	新日本建設株式会社 代表取締役 高見 克司
建築物の所在地	川崎市宮前区宮前平3丁目11番27、28、29、30
設計者氏名、建築士事務所名	森山 隆 新日本建設株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,333.33m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階、地下1階
工事完了予定年月	令和3年5月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)EXC宮前平Ⅱ計画 新築工事		階数	地上5F地下1F
建設地	川崎市宮前区宮前平3丁目11番27、28、29、30		構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域		平均居住人員	126人
地域区分	6地域		年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年5月	予定	評価の実施日	2019年12月3日
敷地面積	1,600㎡		作成者	アーキミッション有限公司 北岡正也
建築面積	805㎡		確認日	2019年12月3日
延床面積	3,333㎡		確認者	新日本建設株式会社一級建築士事務所 森山 隆

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★☆☆☆☆ 100%超: ★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 82% ③上記+②以外の 82% ④上記+ 82%</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.2</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 2.9</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.4</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.2</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 3.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.8</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.2</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高スコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準を満たす 植栽により良好な景観を形成している 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率の合計が30%以上	2.0/4.3	2.3
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率45%以上	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.9
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	断熱等性能等級3同等レベル	4.5/6.9	3.3
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
カーテン、庇にて昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準を満たす 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率の合計が30%以上	0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級3同等レベル	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LED照明器具を採用し省エネに配慮。			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	壁下地はLGS下地を採用	2.7/4.7	2.9
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率45%以上	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.1
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	劣化対策等級3	0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	壁下地はLGS下地を採用	2.3/4.0	2.9
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	3.0
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	川崎市緑化指針の基準を満たす 緑被率、水被率、中・高木の水平投影面積率の合計が30%以上	0.8/2.3	1.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級3同等レベル	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LED照明器具を採用し省エネに配慮。			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率45%以上	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.8**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3	0.1/0.1	5.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級3同等レベル	3.4/5.0	3.4
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LED照明器具を採用し省エネに配慮。			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄					
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境							0.40		-	3.2
1 音環境						3.0	0.15	3.0	1.00	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						3.0	0.50	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能						3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能							-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							-	3.0	0.20	
1.3 吸音							-		-	
2 温熱環境						1.0	0.35	3.0	1.00	2.6
2.1 室温制御						1.0	0.50	3.0	1.00	
1 室温						1.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		W				1.0	0.38	3.0	1.00	
3 ゾーン別制御性							-		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.0	0.25	4.0	1.00	3.6
3.1 昼光利用						1.8	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率						1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口							-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		W				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						1.0	0.30	4.0	0.50	
1 昼光制御		W				1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質						4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能							-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理							-		-	
1 CO ₂ の監視							-		-	
2 喫煙の制御							-		-	

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.9
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1	広さ・収納性				3.0	0.40	4.0	1.00	3.0
2	高度情報通信設備対応			各住戸に100Mbitクラスのブロードバンドが整備されている	3.0	1.00	4.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00	4.0	1.00	
1.2 心理性・快適性									
1	広さ感・景観				1.0	0.30	2.0	0.40	
2	リフレッシュスペース				3.0	-	3.0	0.50	
3	内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理									
1	維持管理に配慮した設計				2.0	0.50	2.0	-	
2	維持管理用機能の確保				2.0	0.50	2.0	-	
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振									
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.50	3.0	-	2.9
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	3.0	-	
2.2 部品・部材の耐用年数									
1	躯体材料の耐用年数	R		住宅性能評価 劣化対策等級3	3.2	0.30	3.0	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20	2.0	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R			3.0	0.10	3.0	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10	3.0	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R			3.0	0.20	3.0	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			3.0	0.20	3.0	-	
2.4 信頼性									
1	空調・換気設備				3.0	0.20	3.0	-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20	1.0	-	
3	電気設備				3.0	0.20	3.0	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	3.0	-	
5	通信・情報設備				2.0	0.20	2.0	-	
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり									
1	階高のゆとり				3.0	-	3.0	0.50	
2	空間の形状・自由さ				3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり									
3.3 設備の更新性									
1	空調配管の更新性				3.0	1.00	3.0	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	3.0	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	3.0	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	3.0	-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	3.0	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	3.0	-	
Q3 室外環境(敷地内)									
1 生物環境の保全と創出				G	W	H			
2 まちなみ・景観への配慮				G					
3 地域性・アメニティへの配慮									
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H			

LR 建築物の環境負荷低減性										3.2	
LR1 エネルギー										3.4	
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H		3.0	0.20				3.0
2 自然エネルギー利用		W		H		2.0	0.10				2.0
3 設備システムの高効率化		W		H	[BEQ][BEIm] = 0.90	4.0	0.50				4.0
4 効率的運用						3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価											
4.1 モニタリング		W		H							
4.2 運用管理体制		W		H							
集合住宅の評価						3.0	1.00				
4.1 モニタリング		W		H		3.0	0.50				
4.2 運用管理体制		W		H		3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル										2.8	
1 水資源保護		W		R		3.0	0.20				3.0
1.1 節水						3.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	1.00				
2 雑排水等利用システム導入の有無											
2 非再生性資源の使用量削減						2.8	0.60				2.8
2.1 材料使用量の削減		W		R		2.0	0.10				
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W		R		3.0	0.20				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W		R	-	3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W		R	-	1.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W		R		2.0	0.10				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W		R	壁の下地はLGS(スタッド組)工法を採用	5.0	0.20				
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.0	0.20				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30				
3.2 フロン・ハロンの回避						3.0	0.70				
1 消火剤		W				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)		W				3.0	1.00				
3 冷媒		W				-	-				
LR3 数地外環境										3.2	
1 地球温暖化への配慮		W			排出率参照値の82%を達成	3.7	0.33				3.7
2 地域環境への配慮						2.9	0.33				2.9
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W		H	3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制						2.7	0.25				
1 雨水排水負荷低減					R	3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制					R	3.0	0.25				
3 交通負荷抑制					R	2.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制					R	3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮						3.1	0.33				3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40				
1 騒音						3.0	1.00				
2 振動						-	-				
3 悪臭						-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						3.0	0.40				
1 風害の抑制						3.0	0.70				
2 砂塵の抑制											
3 日照障害の抑制						3.0	0.30				
3.3 光害の抑制						3.7	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						4.0	0.70				
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30				